

# タングステン上昇一服

## 車減産、先行き不安高まる

車載部品の切削工具などの原料となるタングステンの国際相場の上昇が一服している。コロナ禍からの景気回復を背景に約8年ぶりの高値圏まで上昇したが、長引く半導体不足や中国でのロックダウン（都市封鎖）に伴う自動車減産で需要の先行き不安が高まった。目先は相場が弱含み展開となりうるが、最大産地である中国の供給調整によって下値が限定される可能性もある。

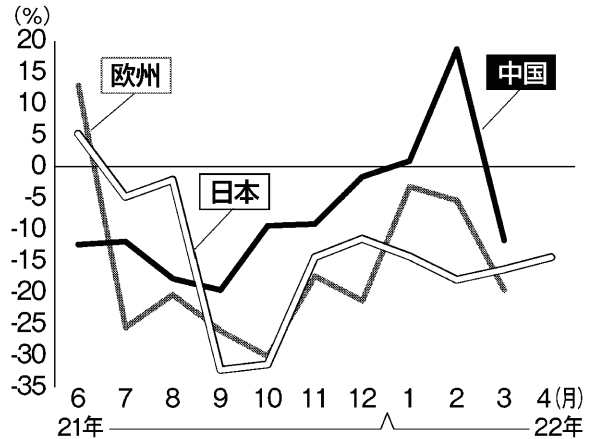
摩擦による高温環境 推移する。1年前比で下でも強度を失わない約3割高く、4月中旬タングステンは、工作機械の超硬工具に使われている。主にエンジンなど車載部品の切削に最終利用されるため、相場は自動車需要の影響を受けやすい。

足元では、中間原料となるパラタングステンの酸アンモニウム（APT）の欧州市中価格が、三酸化タングステン純分ベースで10キロ当たり350ドル近辺を回復基調が後退。日本

では4月が前年同月比14・4%減、欧州主要18カ国（乗用車に限る）は3月が同19・6%減とプラス圏が遠い。中国では新型コロナウイルス感染の再拡大に伴う都市封鎖の影響が直撃したこともあって、3月の新車販売台

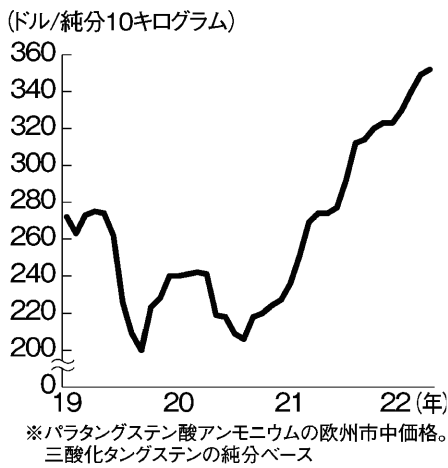
数が前年同月比11・7%減と3カ月ぶりに前年割れとなった。車載用半導体をめぐっては、電力制御用のパワー半導体が出回ってきているものの「（車体の動きを制御する）マイコン系の半導体が足りていない」（豊田通商の岩本秀之取締役・最高財務責任者（CFO））との声がある。ロシアのウクライナ侵攻もタングステン需要に影を落とす。レアメタル専門商社アドバンストマテリアルジャ

主要国の新車販売台数(前年同月比)



※各自動車業界団体のデータを基に作成。欧州は主要18カ国の乗用車に限る

タングステン相場(月平均)



※パラタングステン酸アンモニウムの欧州市中価格。三酸化タングステンの純分ベース